

| 科目名 | | 建築計画Ⅰ | | | | |
|---|---|--|------|--|------|------|
| 担当教員 | | 木戸 久美子 | | 実務授業の有無 | | |
| 対象学科 | | インテリアデザイン科 | 対象学年 | 1 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | | 必修 | 単位数 | 1 | 時間数 | 16時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | | 建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。 | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | | 建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | | ①図説 やさしい建築計画 (学芸出版社) | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 建築計画の基本知識-1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 2 | 建築計画の基本知識-2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 3 | 建築計画の基本知識-3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモジュラーコーディネーション ②建築計画の進め方 ・機能計画(ゾーニング・グルーピング) ・動線計画、規模計画 ・構造計画、設備計画、避難・防災計画 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 4 | 各部および単位空間の計画-1 ①各部の計画：各部の種類・寸法計画について ・扉・窓・屋根の種類、階段・スロープの寸法と勾配 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 5 | 各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 6 | 独立住宅の計画-2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ・日本の伝統的な住宅にみられる平面形式について ②独立住宅の事例 ・日本の代表事例、日本のその他の事例、諸外国の事例 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 7 | 独立住宅の計画-3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語 ・各種工法 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 8 | 独立住宅の計画-2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ・日本の伝統的な住宅にみられる平面形式について ②独立住宅の事例 ・日本の代表事例、日本のその他の事例、諸外国の事例 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 9 | 独立住宅の計画-3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語 ・各種工法 | | | 方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習 | | |
| 10 | 小テスト①② | | | 項目1～10から抜粋し小テストで理解度の確認。 解答→解説を行う。 準備学習：項目1～10を教科書、プリントなどで復習 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | 履修上の注意 | | |
| 平常点 | 期末テスト | 小テスト | | 建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。 | | |
| 10 % | 70 % | 20 % | % | | | |
| 成績評価基準は | | | | | | |
| A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | | | | |